

2019年3月期
決算説明資料

2019年6月7日

神田通信機株式会社

(証券コード:1992)

目次

1. 2019年3月期 連結決算の概要

2. 2020年3月期 連結決算の見通し

3. 企業価値向上への取組み



1. 2019年3月期 連結決算の概要

2019年3月期 連結決算の概要(1)



連結業績の概要

当連結会計年度においては、情報通信事業、照明制御事業の売上が増加し、不動産賃貸事業が同水準で推移したことにより、売上高としては62億25百万円(前年同期比6.4%増)となり、固定資産の売却に伴う特別利益の計上と繰延税金資産の計上に伴う法人税等調整額の計上があり、親会社株主に帰属する当期純利益は2億90百万円(前年同期比92.6%増)となりました。

(百万円)	2018年3月期				2019年3月期				前年同期比	
	上半期	下半期	通期		上半期	下半期	通期		増減	
	金額	金額	金額	構成比	金額	金額	金額	構成比	金額	率
売上高	2,368	3,481	5,850	100.0%	2,907	3,317	6,225	100.0%	375	6.4%
売上原価	1,738	2,590	4,329	74.0%	2,278	2,390	4,669	75.0%	340	7.9%
売上総利益	630	890	1,521	26.0%	629	926	1,555	25.0%	34	2.3%
販売費及び一般管理費	695	666	1,361	23.3%	667	683	1,351	21.7%	△ 10	△0.8%
営業利益	△ 65	224	159	2.7%	△ 38	243	204	3.3%	45	28.2%
経常利益	△ 29	256	227	3.9%	3	274	278	4.5%	50	22.1%
税金等調整前当期純利益	△ 29	256	227	3.9%	3	315	319	5.2%	91	40.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 36	187	151	2.6%	△ 10	301	290	4.7%	139	92.6%

※記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております。

2019年3月期 連結決算の概要(2)



セグメント別業績の概要(半期・通期の推移)

情報通信事業においては、情報と通信の組織融合効果発揮に取り組んだ結果、大口案件の獲得増により売上、利益共に増加いたしました。照明制御事業においては、ゼネコン・設計事務所等への営業強化に取り組んだ結果、チェーン店舗・リニューアル案件の獲得増により、利益率が高まり通期で黒字化しました。不動産賃貸事業においては、前連結会計年度とほぼ同水準で推移いたしました。

(百万円)		2018年3月期				2019年3月期			
		上半期 金額	下半期 金額	通期 金額	通期 構成比	上半期 金額	下半期 金額	通期 金額	通期 構成比
情報通信	売上高	2,232	3,330	5,563	95.1%	2,754	3,121	5,875	94.4%
	売上総利益	593	847	1,441	94.8%	591	850	1,442	92.7%
	営業利益	△69	211	141	88.4%	△48	203	154	75.4%
照明制御	売上高	102	117	220	3.8%	119	162	281	4.5%
	売上総利益	15	23	39	2.6%	15	57	73	4.7%
	営業利益	△16	△5	△21	△13.7%	△11	21	9	4.8%
不動産	売上高	33	33	66	1.1%	34	33	67	1.1%
	売上総利益	21	14	40	2.7%	21	14	40	2.6%
	営業利益	21	18	40	25.3%	21	18	40	19.8%
合計	売上高	2,368	3,481	5,850	100.0%	2,907	3,317	6,225	100.0%
	売上総利益	630	890	1,521	100.0%	629	926	1,555	100.0%
	営業利益	△65	224	159	100.0%	△38	243	204	100.0%

※1 記載金額の表示単位未満の端数につきましては、切り捨てて表示しております。

※2 売上収益のセグメント間の取引につきましては相殺消去しております。

2019年3月期 連結決算の概要(3)



連結貸借対照表の概要

(百万円)	2018年3月期		2019年3月期		前年同期比 増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	4,141	58.0%	3,925	57.6%	△216
(現金預金)	1,643	23.0%	1,808	26.6%	165
(受取手形・完成工事未収入金等)	1,871	26.1%	1,797	26.4%	△74
(未成工事支出金・仕掛品)	521	8.9%	225	4.6%	△296
固定資産	3,000	42.0%	2,885	42.4%	△114
有形固定資産	1,862	26.0%	1,771	26.0%	△91
無形固定資産	8	0.1%	10	0.1%	2
投資その他の資産	1,130	15.8%	1,103	16.3%	△26
資産合計	7,142	100.0%	6,811	100.0%	△331
流動負債	2,361	33.0%	1,892	27.8%	△469
(支払手形・工事未払金等)	1,565	21.9%	1,036	15.3%	△529
固定負債	1,077	15.1%	992	14.6%	△85
(リース債務)	65	0.9%	40	0.9%	△25
負債合計	3,438	48.1%	2,884	42.3%	△554
資本金	1,310	18.3%	1,310	19.2%	-
資本剰余金	1,087	15.2%	1,087	16.0%	-
利益剰余金	1,108	15.5%	1,359	20.0%	250
自己株式	△131	△1.8%	△131	△1.9%	△0
株主資本	3,375	47.3%	3,625	53.2%	250
その他包括利益累計額	328	4.6%	301	4.4%	△27
純資産合計	3,703	51.9%	3,926	57.7%	223
負債純資産合計	7,142	100.0%	6,811	100.0%	△331

将来の成長に向けた
投資が必要と認識

事業構造改革
働き方改革
人財投資
社内システム刷新



2019年3月期 連結決算の概要(4)



連結キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)	2018年3月期 実績金額	2019年3月期 実績金額	増減金額
営業活動によるキャッシュフロー	104	162	58
投資活動によるキャッシュフロー	143	△278	△421
(主な内訳)			
定期預金の預入による支出	△86	△486	△400
有形固定資産の取得による支出	△8	△69	△61
有形固定資産の売却による収入	—	173	173
投資有価証券の償還による収入	100	—	△100
財務活動によるキャッシュフロー	△93	△119	△26
現金及び現金同等物の増減額	154	△234	—
現金及び現金同等物の期首残高	1,427	1,581	—
現金及び現金同等物の期末残高	1,581	1,346	—

企業価値向上に向けた
戦略的な事業展開

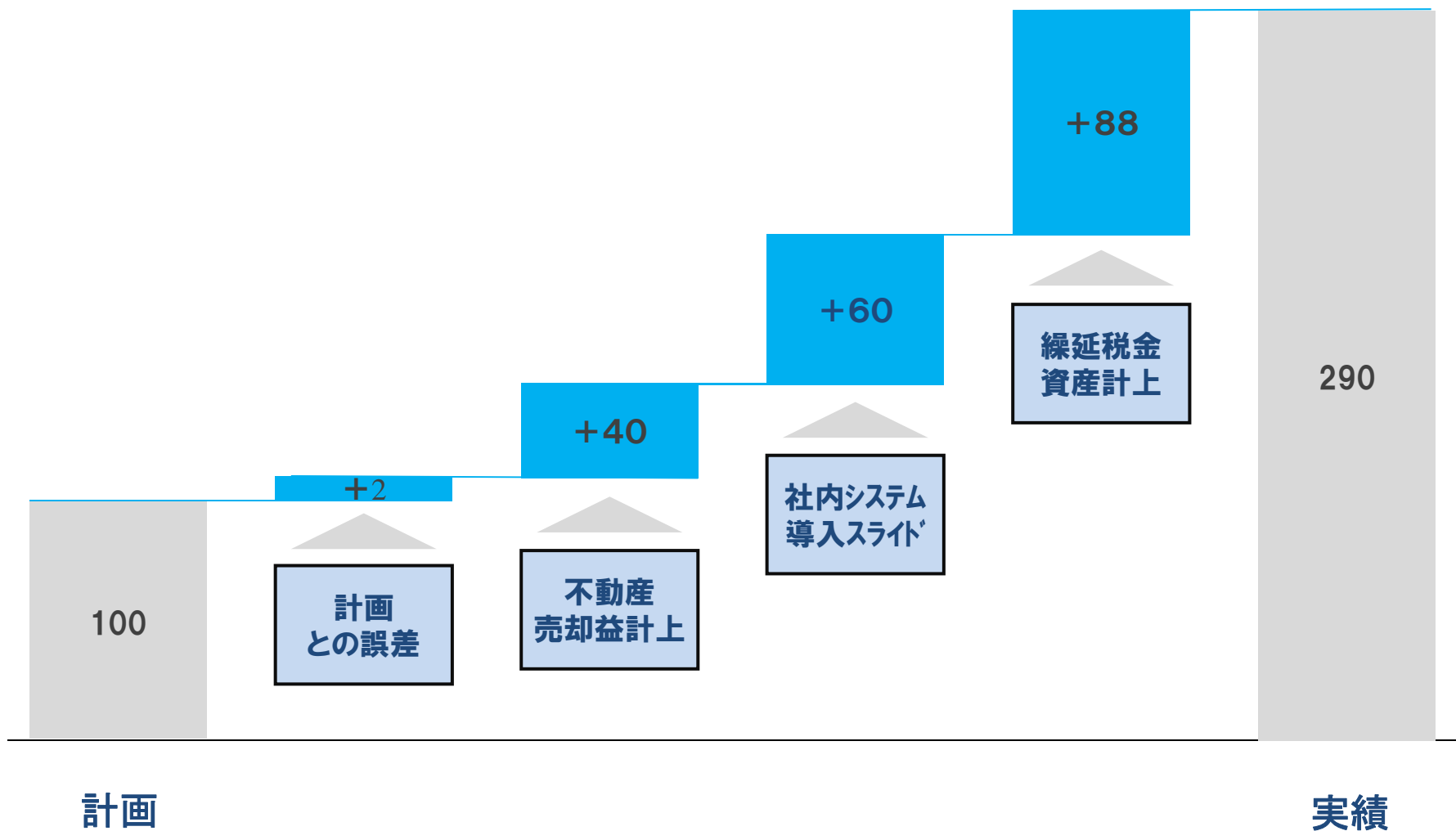
フリーキャッシュフロー
最大化に向けた
企業努力が重要と認識

2019年3月期 連結決算の概要(5)



当期純利益上振れ要因(計画比)

単位:百万円





2. 2020年3月期 連結決算の見通し

(1) 事業セグメント別状況

■ 2019年3月期の取組み

- (1)ソリューション力の強化
- (2)組織営業の徹底
- (3)既存顧客の深掘り

■ 成果

- (1)大型案件の獲得、(2)プロジェクト推進力の向上

■ 反省

- (1)ソリューション営業への転換、(2)売上計画未達

■ 2020年3月期の取組み –“モノ”から“コト”売りへ–

- (1)ソリューション力の強化(継続)
- (2)マルチゲートウェイ事業の展開(新規)
- (3)既存顧客の深掘り(継続)

■ 2019年3月期の取組み

- (1) 自社優位案件の醸成
- (2) 短納期案件の獲得
- (3) システム提案・構築力の強化

■ 成果

- (1) 多店舗・改装案件の獲得、(2) 共同開発の実現

■ 反省

- (1) メリット・強みの訴求、(2) 売上計画未達

■ 2020年3月期の取組み —新たな価値の創出へ—

- (1) 自社優位・短納期案件の醸成・獲得(継続)
- (2) システム化案件の深掘り(新規)
- (3) 組織営業の徹底(継続)

(2) 今期の業績見通し

2020年3月期 連結決算の見通し(2)



業績見通し

(百万円)	2017年3月期 (80期)	2018年3月期 (81期)	2019年3月期 (82期)			2020年3月期 (83期)
	実績	実績	計画	実績	差異	計画
売上高	5,852	5,850	6,500	6,225	△275	6,500
(うち照明制御事業売上高)	(301)	(220)	(430)	(282)	(△148)	(700)
売上総利益	1,529	1,521	1,640	1,555	△85	1609
営業利益	162	159	120	204	84	180
経常利益	215	227	170	278	108	230
当期利益	151	151	100	290	190	140
当期利益率	2.6%	2.6%	1.5%	4.6%	3.1%	2.1%
ROE	4.2%	4.2%	2.7%	7.6%	4.9%	3.6%

配当方針

- **利益還元は経営の重要課題**

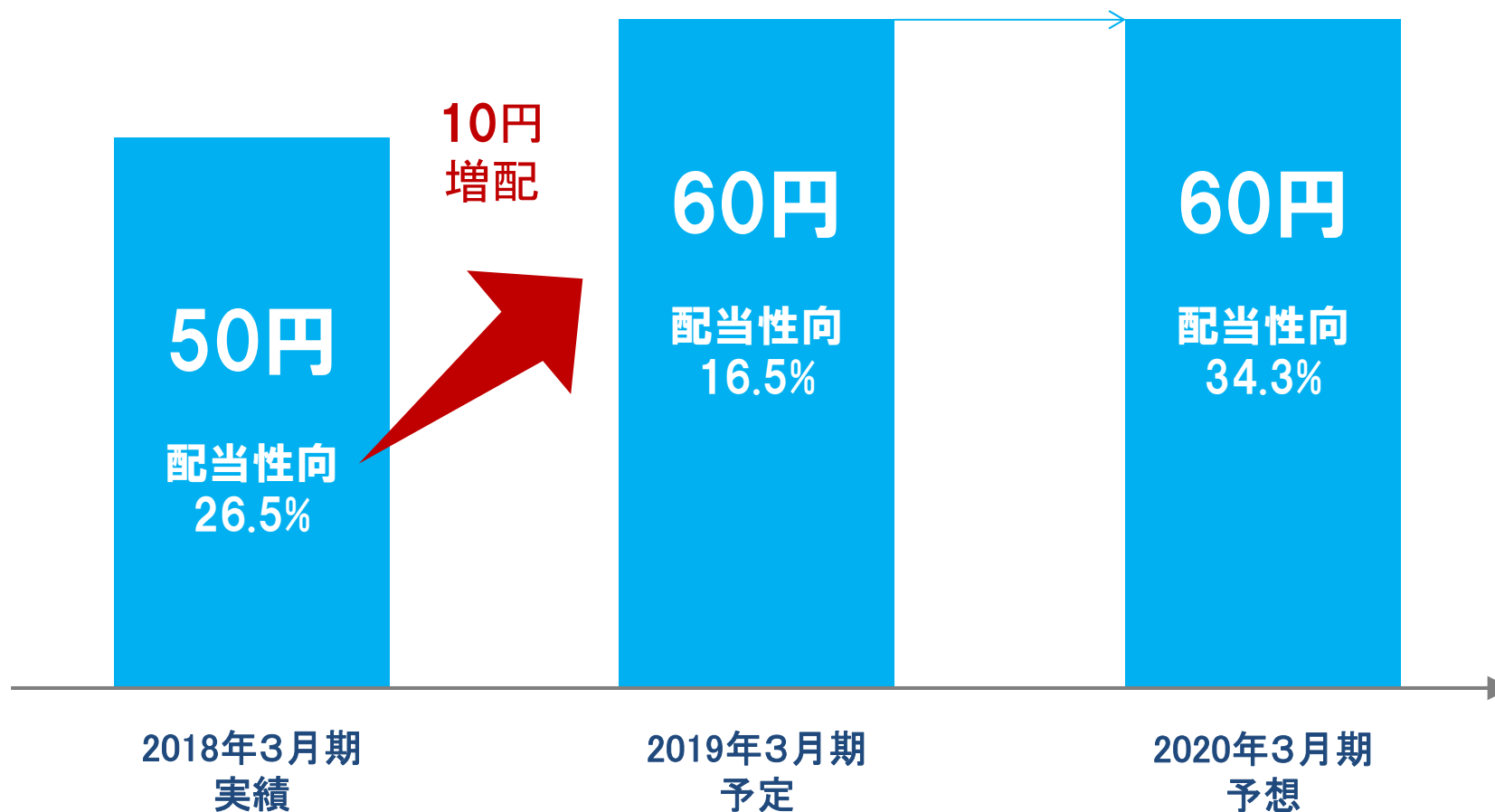
- **配当性向は25%を目途**

- **安定的な配当を継続**

2020年3月期 連結決算の見通し(3)



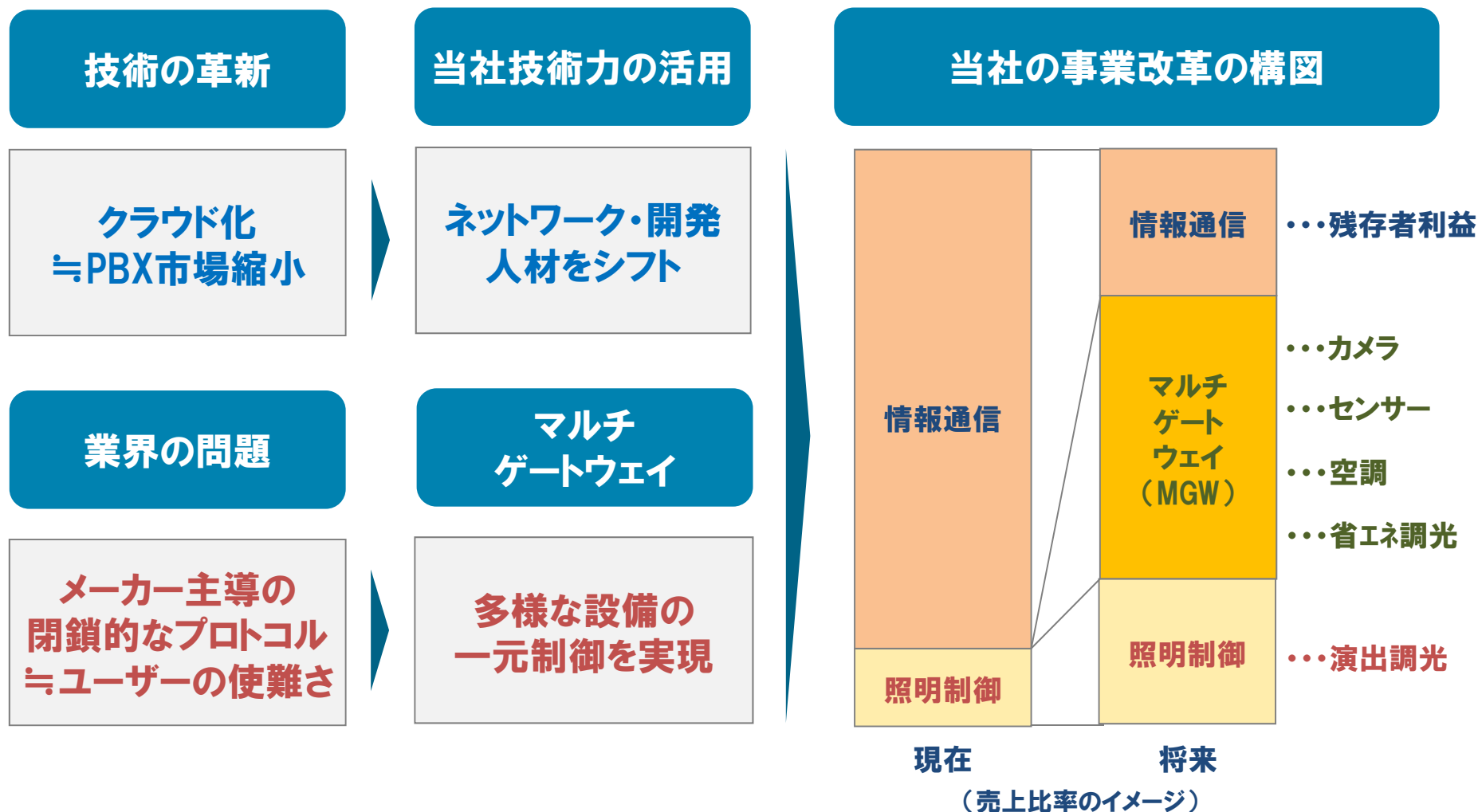
期末配当



3. 企業価値向上への取組み

外部環境の変化と事業構造改革

外部環境の変化を踏まえ、事業構造の大幅改革へ

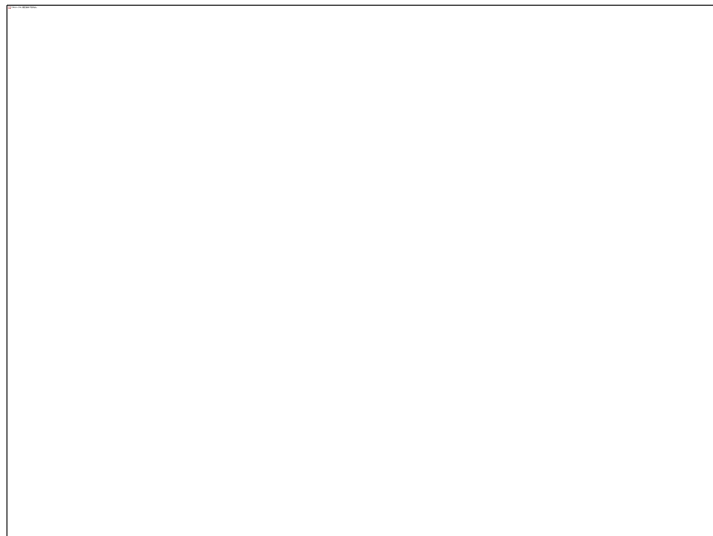


- * ここで、照明制御事業におきまして
竹中工務店様と共同開発致しました
音声・文字認識「ツイートREMO」の
ビデオをご覧ください。**

「ツイートREMO」の活用例(病院・福祉施設)

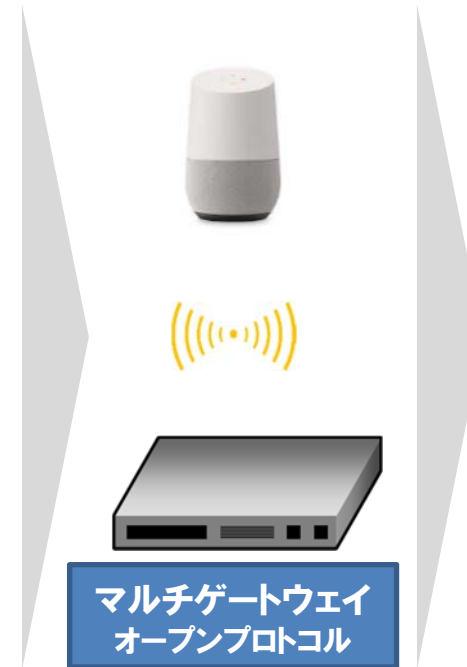
患者様・入居者様にとって

Before



ベッドを起こしたい・・・
カーテンを閉めたい・・・
照明を暗くしたい・・・
空調を止めたい・・・

でも・・・、体が思うように動かない

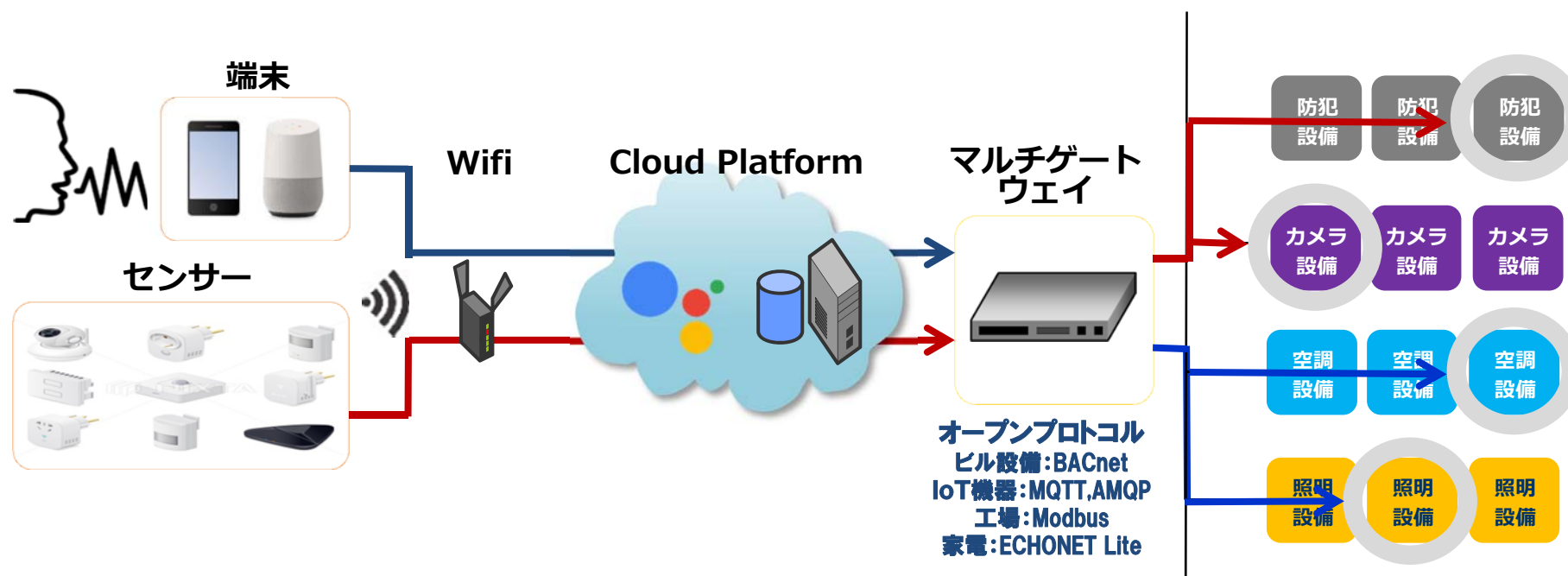


After

話しかけるだけで
機器操作

マルチゲートウェイ(MGW)の概念(1)

複数(ひと・センサー) 対 複数(設備機器)の制御が可能



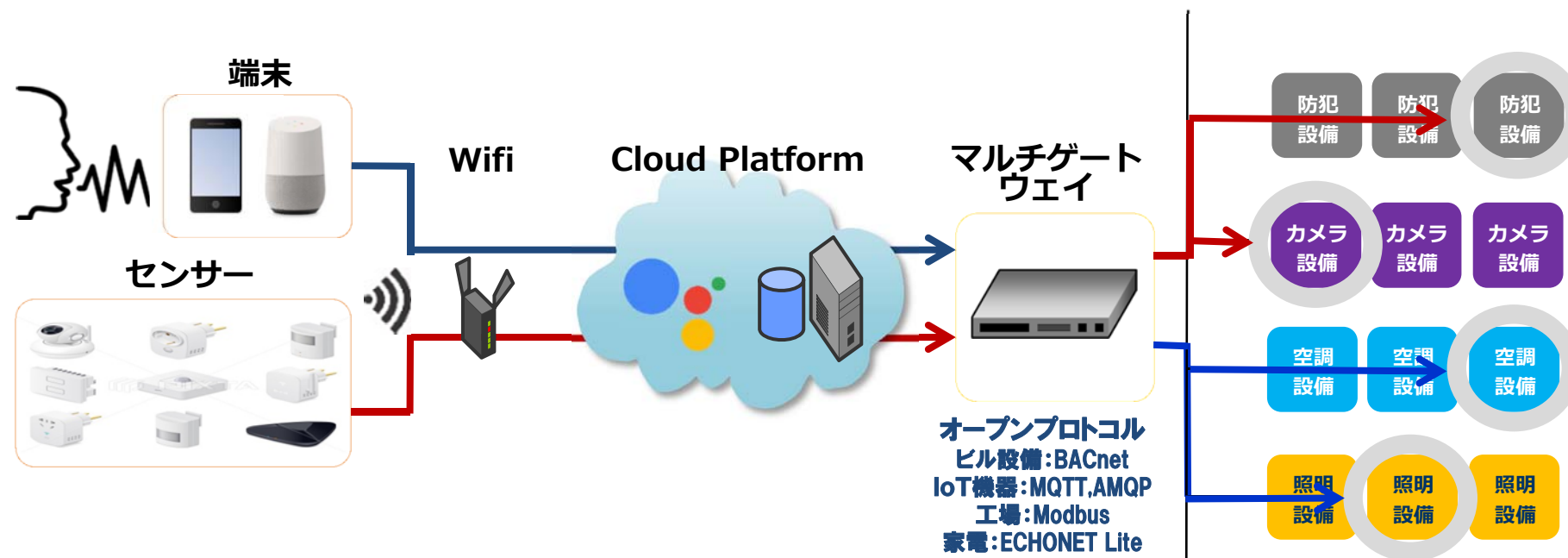
複数のひと・センサーを
判別することが可能



会議室Aの照明を消し、Bでは点ける、
Aの室内温度を下げ、Bでは上げる、
といった個別制御が可能

マルチゲートウェイ(MGW)の概念(2)

複数(ひと・センサー) 対 複数(設備機器)の実現には各種技術が必要



開発①
位置検出
アプリの開発

複数のひと・センサーを
判別することで
誤作動を防止

開発②
言語指令を
設備操作指令に変換

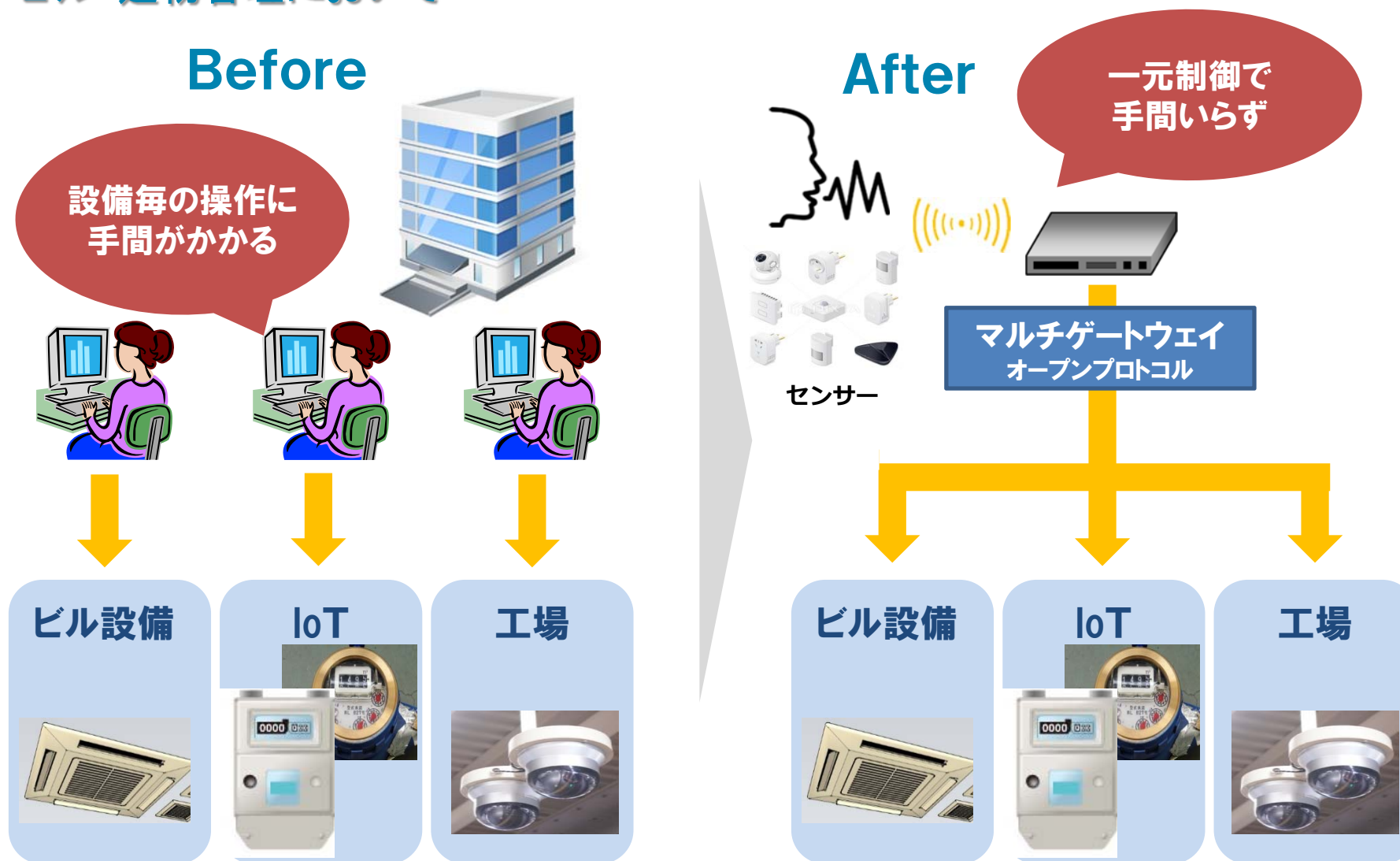
クラウド、AIスピーカなど
オープンプラットフォームで
システム開発を迅速化

開発③
設備操作指令を
BACnet変換

異なるメーカーの
多様な設備を
一括して制御

マルチゲートウェイ(MGW)の活用例(1)

ビル・建物管理において



マルチゲートウェイ(MGW)の活用例(2)

病院・福祉施設において

Before



安心・安全・快適な
看護・介護を提供したい
でも・・・、人手が足りない

センサー



マルチゲートウェイ
オープンプrotocol

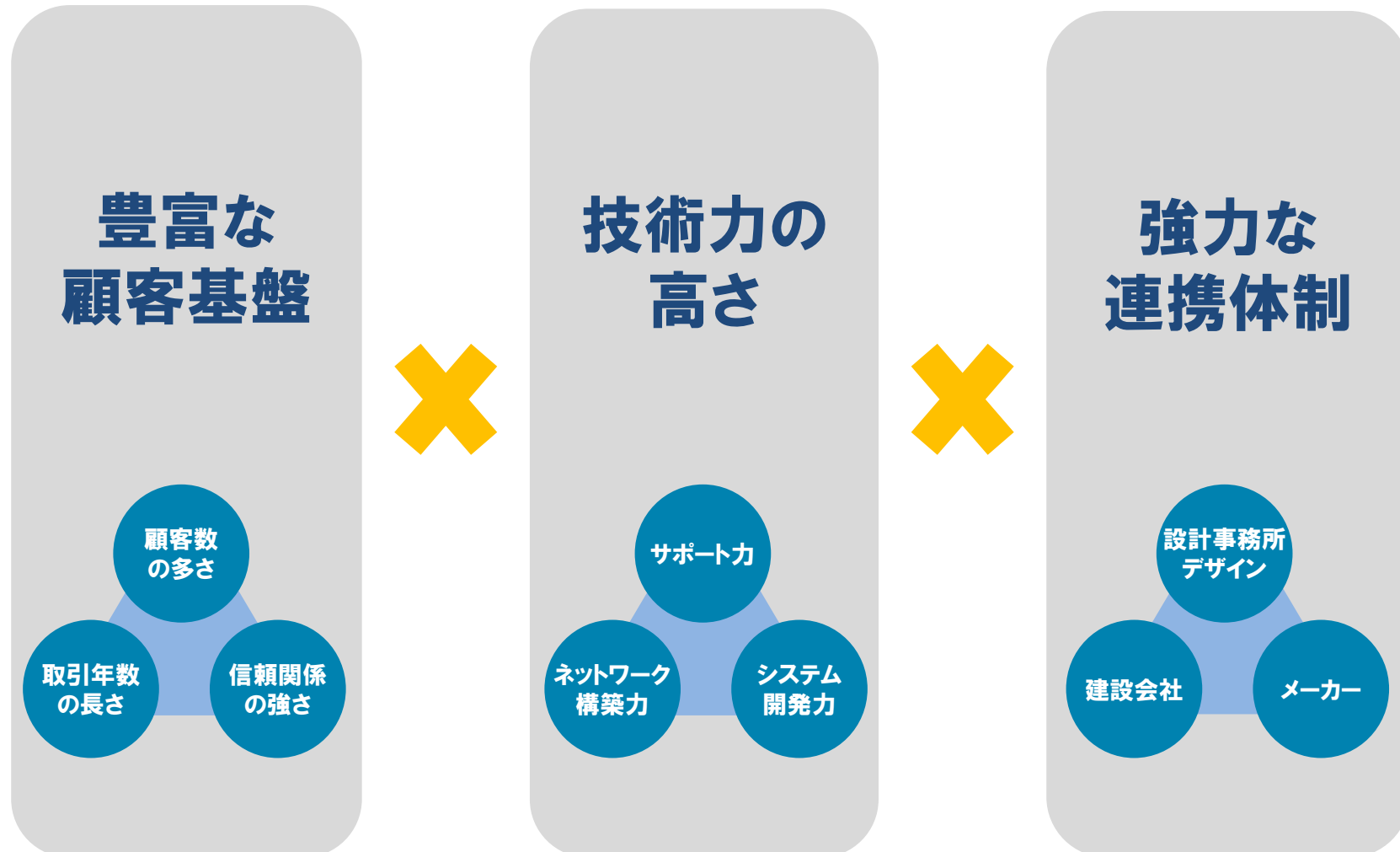
After

各種センサーから
バイタル情報を通知
血圧、脈拍、尿漏れ・・・

必要な時に駆け付け
人手不足の解消
QOLの改善
施設価値の向上

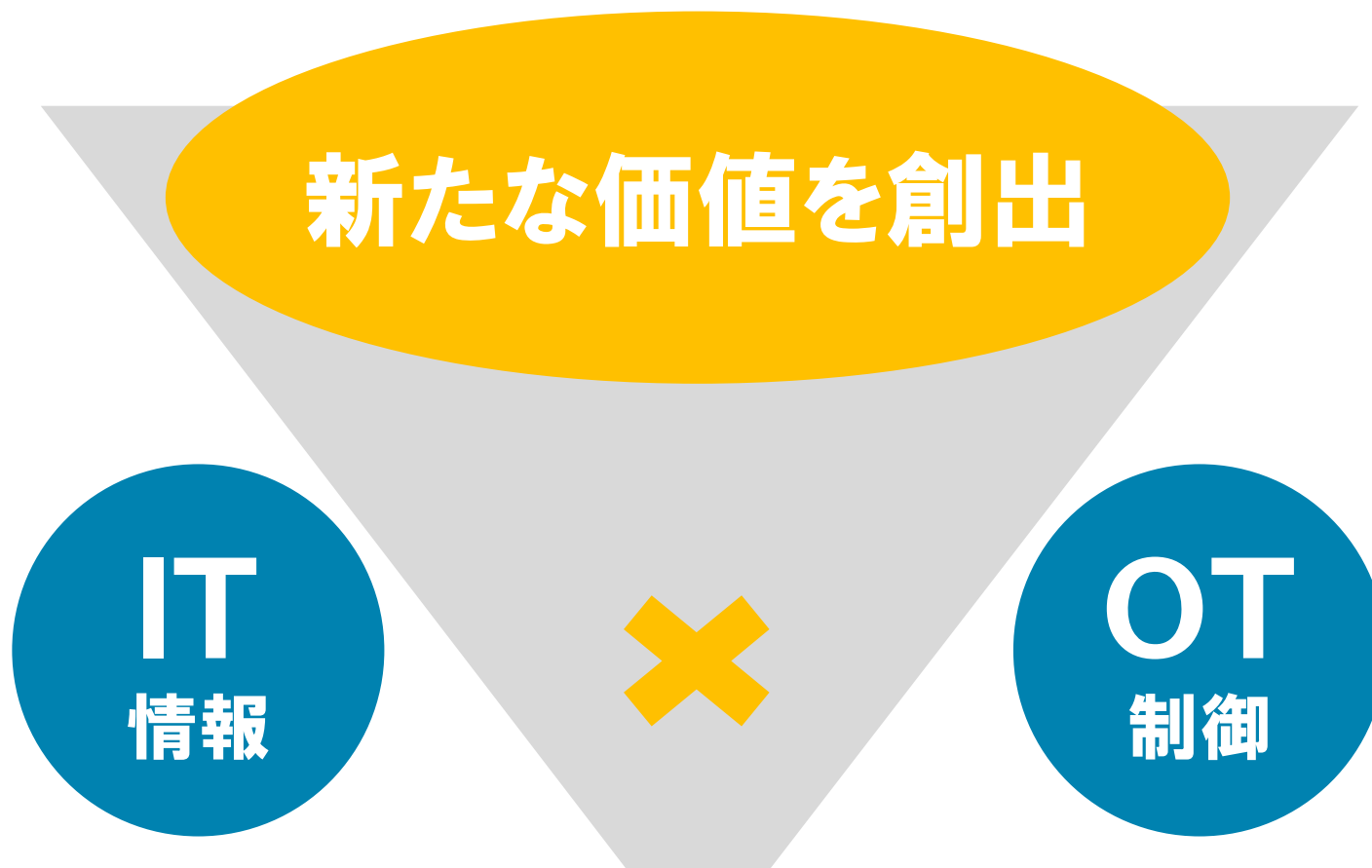
MGWビジネスを推進する差別化要素

3つの強みの組合せによる相乗効果の発揮



ビッグデータを視野に入れたビジネス展開





ネットワークに繋がる全ての機器を制御するエンジニアリング会社になる

本資料における将来の業績等に関する記載は、現時点で入手可能情報から得られた判断に基づき作成しております。今後の実際の業績は、様々な要因の変化により記載の見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき願います。

